

山國の星満開の雛まつり

藤田湘子

湘子には雛祭の句がたくさんある。娘二人の父だったことを思えば納得がゆく。雛を飾る妻の様子に着想を得た句が多く、雛飾りの仕種や雛納めの様子を見るとものしに見ていたであろうまなざしが感じられてうれしい。

そんな句の中で掲句は少し異色、どこの山国だろう。句集『春祭』のこの句の前には「初蝶やいきなり白馬鹿島槍」「春寒や夜目に蓮華嶽の白襖」がある。北アルプスを望む山国で夜空いっぱいに広がる星を「満開」と見た心の華やぎが気持ちいい。「ああ、今日は三月三日、雛祭か」と、わが家の古雛を思い、昔日の妻や娘に思いをはせたかどうかは分からないが、きらめく星のかがやきを想えば、満ち足りた思いがひろがってゆく。

1979年(54作) 第五句集『春祭』 鑑賞・野本京